

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和6年12月27日(金曜日) 第3427号
(昭和42年7月10日第3種郵便物認可)
毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健
購読料 6ヵ月 14,300円(税込み)
振替番号 東京4-71739
発行所 株式会社日刊経済通信社
本社/東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル9階
☎03(5847)6611(代) FAX 03(5847)6600
名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791
<http://www.nikkankeizai.co.jp/>

本紙が選んだ

今年の重大ニュース②

小売・流通

2024年の小売流通業界最大の注目はセブン & ホールディングスの行く末だろう。社名変更、非中核事業の分離に加え、さらには海外勢による買取提案、創業家によるMBOなど12月中旬時点で着地点が不透明にある。イオングループや西友、イズミなど大手企業の業界再編も進んだ。足元では一品単価の上昇が継続し、売上高自体は増収基調にあるが利益面では苦慮している。CVS業界では「商品が割高に感じる」とする消費者が圧倒的に多く、イメージ払拭が最優先課題で、値下げや増量企画など値ごろ感ある商品の拡大に舵を切っている。

◎イトーヨーカ堂 セブン&アイから分離へ

セブン&アイ・ホールディングスがグループ構造の最適化に向けた取り組みを発表。ヨーカ堂などスーパーストア事業と外食など関連する事業会社(計31社)を束ねる中間持株会社

「ヨーク・ホールディングス」を設立、グループから分離されることが決定。少数持分は維持することで、「セブンプレミアム」など食品開発領域における協働体制は継続していく予定。



中間持株会社はIPO(新規株式公開)を視野に入れると同時に、戦略的パートナーの招へいを検討。売却に向けた入札で複数の海外ファンドや総合商社などが名乗りを挙げており、12月時点ではその着地点が不透明にある。

またセブン&アイは社名を「7-Eleven Corporation」(仮)に変更し、グローバルCVS戦略にフォーカスすることも発表。一方で、海外企業の買取提案、創業家によるMBOの可能性が取りざたされており、25年

主な内容

2024年の重大ニュース②

1~7面	(小売・流通、清涼飲料、嗜好調味料、食品、缶瓶詰、調剤)
8面	◎原料商品情報
9面	◎CVS客数伸び悩み、割高感払拭へ
10面	◎西友、北海道・九州事業を譲渡
11面	◎三菱商事とKDDIが

◎新年号は1月3日号からとさせていただきます。

以降の行方が注目される。西友は北海道事業をイオンに、九州事業をイズミにそれぞれ譲渡。イオン北海道は西友が札幌市内で展開する9店舗を取得、多様な業態、店舗にリニューアル。これにより中計で掲げる25年度直営売上高3800億円および北海道No.1となる食品売上高3000億円を目標とする。九州事業69店舗はイズミ子会社・ゆめマート熊本と統合、同社のもとで地域密着の店舗づくりを目指す。イズミが「2030年長期ビジョン」として掲げる中四国・九州地域を軸とした300店舗体制の実現、営業収益1兆円の達成に向けた大きな足掛かりとする。距離的に首都圏から離れ、物流等の効率を上げにくい課題があった一方、日本は地域の食文化が豊かで、地域に根ざした地場

2次加工品 製油
緑茶飲料 R.N.プロモ飛び
11月のアイス商況
10月のみそ出荷量
日本スノーボードGP決定
◎原料商品情報
8面 13面 9面 11面 15面

スーパーがドミナント化する方が消費者にとっても業界にとっても良い方向と判断した。

◎CVS客数伸び悩み、割高感払拭へ
全業態の中で「CVS商品は割高に感じる」とする消費者が圧倒的に多く、イメージ払拭が優先課題。節約志向が高まっていることから、価値に加え、値ごろ感を訴求していく方向に舵を切った。業界トップのセブナイイレブンの手巻おにぎり128円(税別)が大好評で、一定程度の手ごたえ。チルド弁当などオリジナル商品やPBにも対象拡大。同業も増量企画やクーポン配信などで節約志向に対応し、陳列棚にはひと頃より割安の商品が目につくようになってきている。しぼらくは経済性重視の価格戦略に動くと思われる。

◎三菱商事とKDDIが
(2面に続く)

KIRIN'S PRIME BREW

おいしいとこだけ 搾ってます。

一番搾り

ストップ! 20歳未満飲酒・飲酒運転。お酒は楽しく適量で。妊娠中・授乳期の飲酒はやめましょう。のんだあとはリサイクル。

キリンビール株式会社